

2月校長の想い

自分の生き方

令和4年も1カ月が経ちました。

それだけでなく、1月は行く、2月は逃げる、3月は去るといって、あっという間に過ぎ去っていく学期です。

悔いの残らぬように、しっかりとした生活を過ごしてほしいものです。そして、自分がどのように生きていくのかということじっくり考えてください。

私が30歳代後半の頃、ある学校の3年生の担任をしていた時の教え子の話しです。

当時勤務していた学校は、女子のハンドボールが強く、その子は、ハンドボール部に所属し、ポジションはゴールキーパーでした。

夏休みに入る少し前、その子が、相談したいことがあると言ってきました。

「受験生なので、部活動を引退して大学入試に向けて勉強を開始しようと考えていた矢先に、あるハンドボールの名門校の監督から連絡があって、国民体育大会のゴールキーパーとして来てくれないかと誘われました。普段は、学校の授業が終わってから自転車で移動して練習に参加して、土日や夏休みは終日の練習に参加する必要があるので、受験生としては勉強する時間を削らなければなりません。先生ならどうしますか。」という相談でした。

私は、「私なら、迷わず国体を選ぶよ。きっと一生に一度だけのことで、大学受験は合格しなかったらまた来年もあるじゃないか。」と答えました。

その子は、「先生に相談すれば、たぶんそのようなことを言われると思っていました。」と言って国体の練習に参加することを選びました。

国体を選んだといっても、相当きつい練習であったことと察します。きっと、私に背中を押してほしかったのでしょう。

結局その年、大学にも合格して、現在は北海道にある大学の教授として幸せに暮らしています。